

1 病因物質一覧表

(感染型食中毒)

病原菌	主要症状	潜伏時間	主検査材料
サルモネラ属菌	下痢、腹痛、発熱、嘔気、嘔吐、頭痛	6時間～3日 (多くは12～36時間)	患者便・血液・原因食品
病原性大腸菌	下痢、腹痛、発熱、嘔気、嘔吐、頭痛	6時間～3日 (多くは10～15時間)	患者便・原因食品・水
毒素原性大腸菌	下痢、腹痛、発熱、嘔気、嘔吐、頭痛	6時間～3日 (多くは10～15時間)	患者便・原因食品・水
組織侵入性大腸菌	下痢、腹痛、発熱、嘔気、嘔吐、頭痛	12時間～3日	患者便・原因食品・水
腸管出血性大腸菌	下痢(血便)、腹痛、発熱、嘔気、嘔吐、頭痛	1～7日	患者便・原因食品・水
エルシニア エンテロコリチカ	下痢、腹痛、発熱、頭痛	1～4日	患者便・血液・原因食品・水
腸炎ビブリオ	下痢、腹痛、発熱、嘔気、嘔吐、頭痛	4時間～2日	患者便・原因食品
NAGビブリオ (含ビブリオ・ミミクス)	下痢、腹痛、嘔気、嘔吐、発熱	1～5日	患者便・原因食品・水
ビブリオ フルビアリス	下痢、腹痛、嘔吐、発熱	不詳	患者便・原因食品
カンピロバクター ジェジュニ/コリ	下痢(粘血)、腹痛、発熱、嘔気	1～7日 (多くは3～4日)	患者便・血液・原因食品・水
エロモナス・ヒドロフィラ /ソプリア	下痢、腹痛、発熱、嘔吐	不詳	患者便・原因食品
プレシオモナス シゲロイデス	下痢、腹痛、発熱	不詳	患者便
ウエルシュ菌	下痢、腹痛	4～24時間 (多くは8～12時間)	患者便・原因食品
セレウス菌(下痢性)	下痢、腹痛	6～16時間 (多くは10～12時間)	患者便・原因食品

(毒素型食中毒)

ブドウ球菌	嘔気、嘔吐、下痢、腹痛	1～6時間 (多くは2～4時間)	原因食品・患者吐物・便
セレウス菌(嘔吐型)	嘔気、嘔吐	1～5時間 (多くは2～3時間)	原因食品・患者吐物・便
ボツリヌス菌	嚥下困難、複視、失声、口渇、呼吸困難	12時間～6日 (多くは18～36時間)	原因食品・患者血液・便

(化学物質による食中毒)

病因物質	症 状	発生要因	潜伏期	備 考
メチルアルコール	頭痛、めまい、嘔吐、下痢、失明、麻酔状態、呼吸困難、死亡	工業用メタノール、誤飲、偽造酒(メタノール入)飲用	3～31時間	中毒量4～8ml 10ml以上飲料の場合失明
重金属及び農薬	スズ	開カン放置又は長期保存の場合、かん詰めの内壁より溶出	5分～5時間	酸性食品(レモンジュース、トマトジュース、果実等)のブリキカン詰によるものが多い
	ヒ素		10分	
	有機塩素		1～3時間	
	有機リン		1～4時間	
	有機水銀		20分～20時間	
油脂酸化物	嘔気・嘔吐、腹痛、下痢	取扱い、保管状態の不良により、食品中の油脂が酸敗	1～12時間	・規制値、油処理めん AV3又はPOV30 ・指導規制値、油菓子 AV3かつPOV30、AV5又はPOV50
ヒスタミン	顔・耳たぶの熱感、紅潮、じんま疹、嘔吐、下痢	赤身の魚の加工品の摂食に起因する	30分～3時間	中毒量4.5～5mg/g プロテウス・モルガニー(モルガネラ・モルガニー)の関与が大きい

(自然毒による食中毒)

病因物質	症 状	発生要因	潜伏期	備 考	
ふぐ毒	口唇部・舌端部のしびれ、頭痛、腹痛、嘔気 ・嘔吐、運動不能、知覚麻痺、言語障害、呼吸困難、死亡	・個人調理による有毒部位の摂取 ・有毒ふぐの誤食	20分～ 3時間	最小致死量 1万MU (旧法では20万MU) 無毒10MU未満 (1kg以下では致死量にはならない) 弱毒10MU～100MU (100g～1kgで致死量) 猛毒1,000MU以上 (10g以下で致死量)	
有 毒 魚	ワックス	下痢(不消化油状便)	魚名詐称による 摂食又は誤食	10数時間～ 30時間	法第4条第2号により食用が禁止されている魚種、パラムツ、アブラソコムツ
	シガテラ	口唇部・舌の痛み、嘔気・嘔吐、口渇、下痢、関節痛、神経過敏、疲労衰弱、視障害、皮膚障害、冷温感覚の逆転	・シガテラ毒素の摂食 ・シガテラ毒素(シガトキシン等)	30分～ 2時間	法第4条第2号により食用が禁止されている魚種、オニカマス ・成熟魚による場合が多い
	ビタミンA	激しい頭痛、嘔気・嘔吐、発熱、顔面の浮腫 ・紅潮・発赤、皮膚の落屑(発病後1～6日からおこる)	・イシナギ等の肝臓の摂食		法第4条第2号により食用が禁止されている魚種、イシナギの肝臓サメ、マグロ等の大型魚の肝臓による場合もある

病因物質		症 状	発生要因	潜伏期	備 考
貝 毒	麻痺性貝毒	口唇部・舌・顔面のしびれ、運動失調、言語障害、流涎、頭痛、口渇、嘔吐、悪心、呼吸麻痺、死亡	<ul style="list-style-type: none"> ・有毒渦鞭毛藻が貝に補食され、その毒が貝体内に蓄積 ・貝毒（サキシトキシン、コニオトキシン等） 	30分～ 1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ムラサキイガイ、ホタテ貝等の主として中腸線に蓄積 ・規制値 4 MU/g以下
	下痢性貝毒	下痢、嘔気・嘔吐、腹痛	<ul style="list-style-type: none"> ・有毒渦鞭毛藻が貝に補食され、その毒が貝体内に蓄積 	5～6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ムラサキイガイ、ホタテ貝等の主として中腸線に蓄積 ・規制値0.05MU/g以下
有毒海藻		腹痛、下痢、嘔気・嘔吐、ショック症状、血圧低下、死亡	不明	30分	・オゴノリ、ツルシラモ等の海藻
毒きのこ		参考資料参照	毒きのこの誤食	参考資料参照（主な毒きのこの鑑別）	
アフラトキシン		肝障害	アスペルギルス・フラバス等により汚染されたトウモロコシ、ナッツ類の摂食		急性毒性、慢性毒性、発ガン性、催奇形性等の障害がある

(ウイルス性食中毒)

病原体	主要症状	潜伏期	主検査材料
ノロウイルス	急激に始まる嘔気、嘔吐、腹痛が多い 次いで下痢、発熱	30～40時間	患者便・原因食品（特にカキ） ・水

(胃腸炎、下痢症に関連した主な感染症)

病名	病原体	主要症状	潜伏期	伝播様式
コレラ	コレラ菌 (<i>Vibrio cholerae</i>)	急激に始まる水様性下痢、嘔吐、脱水 軽症例では下痢のみ	数時間～ 5日	水系及び食品を介する流行。ときに糞便 手指 口への直接伝播がある
細菌性赤痢	赤痢菌 (<i>Shigella</i>)	発熱、腹痛、下痢（粘液便）、裏急後重	1～7日 (通常 2～3日)	水系及び食品を介する流行及び直接伝播
アメーバ赤痢	赤痢アメーバ (<i>Entamoeba histolytica</i>)	腸アメーバ症：腹痛、下痢（粘血便） 肝アメーバ症：右季肋部圧痛、発熱、悪心、黄疸	4日～数年 (通常 2～6週間)	水系及び食品を介する伝播 便を介する人から人への直接伝播
チフス性疾患 腸チフス パラチフス	チフス菌 (<i>S. typhi</i>) パラチフスA菌 (<i>S. paratyphi A</i>)	発熱、頭痛、下痢、背痛、脱力感、食欲不振、バラ疹、脾腫、下痢は初期に軽度、むしろ便秘に傾く	1～3週間 (通常 10～14日)	水系及び食品を介する流行及び直接伝播（健康保菌者が感染源として重要） 原因食品としては生かき、豆腐、生菓子などが多い
A型肝炎	A型肝炎ウイルス (<i>Hepatitis A Virus</i>)	(初発症状) 38以上の発熱を伴って急激に発病、食欲不振、全身倦怠、悪心、嘔吐、下痢、腹痛 (主要症状) 黄疸、肝腫脹が半数以上に認められる	15～50日 (平均25～30日)	感染者の糞便または汚染された飲食物からの経口感染

2 食中毒症状を示す用語

用語	説明
下痢	(はらくだり) 腸管に炎症があるときその主要症状として起こるもので、液状又は液状に近い便を反復排泄することをいう。血性便をよくみるのは、サルモネラ症、腸炎ビブリオ食中毒、病原大腸菌食中毒の他、特異的なものとしては薬品の誤用や自殺目的で大量飲用した場合等がある。
腹痛	(はらいた) 罹患臓器の一部に一致してみられることが多いが必ずしも一致しないこともある。腸炎ビブリオでは、心か部に疝痛様にかつ間歇的に著明に出現することが多い。サルモネラ症や病原大腸菌食中毒の場合は、疝痛様のものは腸炎ビブリオ食中毒に比較すると少ないようである。赤痢では一般的に下向結腸、S字状結腸に主病変があるので左下腹部痛としてとらえられることがある。
嘔気	(はきけ) 咽頭から胃部にかけて感ぜられる特有かつ不快な感覚で、通常、嘔吐に先立って現れる。
嘔吐	(はいた) 胃内容を食道、口腔を経て外へ吐出する現象。一種の反射運動に基づくもので、有害物質が胃に入ったとき腸が下るのを防いで排出するという防御反応の意味が多分にある。
発熱	(ねつがでた) 種々の病的原因で体温調節中枢の機能に変調がおこり、普通の体温以上の温度レベルで体熱の生産と放散が行われている状態をいう。一般に、感染型食中毒では37～38 くらいの発熱を伴い、特にサルモネラ症では39 以上に及ぶこともある。また、毒素型のブドウ球菌食中毒やボツリヌス食中毒ではほとんどの場合発熱はみられない。感染型食中毒として扱われる耐熱性A型ウエルシュ菌食中毒も発熱する例はまれなようである。自然毒、亜鉛、鉛等の重金属による場合も一般に発熱はみられない。
悪寒	(さむけ) 体温の急激な上昇とともに、皮膚血管の収縮により熱放散が妨げられるためにおこる症状で、患者は非常な寒さを感じ、毛孔の閉鎖のために皮膚にいわゆる粟を生じる
頭痛	(あたまいた) 本来は純然たる脳痛をいうのであるが、しばしば顔面痛などが混在されている。脳膜炎、脳腫瘍等の脳疾患の他、急性感染症、便秘、各種の中毒、心臓血管疾患、精神病等に際して現れる。症状は、軽度のときは圧迫感であるが、高度になれば嘔吐等を伴う激烈なものとなる。
倦怠感	(だるい) 気だるさ。通常脱力感を伴う。
脱力感	(力がぬけた) 力が抜けた感じで、通常、倦怠感を伴う。嘔吐、下痢による脱水症状のときになることが多い。

用語	説明
噯気	(げっぷ) 胃内にガスもしくは空気が存在し、食道から口腔に逆流する現象で、生理的には過食の後又は清涼飲料水摂食後の炭酸ガスを排出としてみられる。
戦慄	(ふるえ) 悪寒に伴う症状で、体温の急激な上昇とともに、皮膚血管の収縮により熱放散が妨げられ、患者は非常な寒さを感じて皮膚に粟を生じ、四肢の振顫を来し、音を立てて歯列をかみあわせる(歯鬨)。
裏急後重	(しぶりばら) 直腸炎や赤痢等の炎症性の刺激があるときにみられる症状で、疼痛を伴った頻回の便意を催すが、肛門筋肉の痙れんによって排泄困難となり、排便はほとんど又はまったく行われない状態をいう。
痙れん	(けいれん) 全身の筋又は筋群の発作性収縮をいう。強直性又は緊張性のもものでは筋が一斉に収縮し、四肢を伸ばし頸、背を後ろにそらす。間代性痙れんでは拮抗筋が代わる代わる収縮する。ストリヒニンの中毒では強直性の痙れんがみられる。また、間代性痙れんの典型的なものは、石灰酸の中毒にみられる。
麻痺	(しびれなど) フグ毒による中毒では初期には口唇、顔面、指先等の知覚、運動鈍麻(しびれ)等の症状があり、重症例になると麻痺が四肢に及び起立、歩行困難、呼吸困難や血管運動神経麻痺による血圧低下等をきたす。その他、麻痺性貝毒では口唇、顔面のしびれ感、運動失調が、また、シガテラ毒では「ドライアイスセンセーション」(冷温感覚の異常)と呼ばれる特有の症状が発現する。
眼症状	(めのしょうじょう) ボツリヌス食中毒による瞳孔散大、眼けん下垂、視力低下、複視等がある。
臥床	(ねこんだ) 寝床に横になること。
発疹	(ほっしん) 皮膚病の症状として、視診的あるいは触診的に認知できる肉眼的皮膚病変。斑、丘疹、水疱、膿疱、蕁麻疹などがある。

3 主な毒キノコの鑑別

(1) 中毒症状による鑑別

No	種類	属・科名	毒 性				誤 食		
			毒 性	毒 成 分	潜伏時間	中毒症状	症 状	誤食頻度	誤食原因となる食用キノコ
1	ドクツルタケ タマゴテングタケ シロタマゴテングタケ	テングタケ科	+++	アマトキシン ファロトキシン	10時間位	コレラ型	激しい嘔吐、下痢、腹痛、脱水症状 重症は肝障害、腎障害を起こす 致死率が高い	+	ツルタケ カラカサタケ シロツルタケ
2	コレラタケ (ドクアジロカサタケ)	フウセンタケ科	++	不 明	10時間位	コレラ型	激しい嘔吐、下痢、腹痛、脱水症状 重症は肝障害、腎障害を起こす 致死率が高い	++	ナラタケ エノキタケ ナメコ
3	シャダマアミガサタケ	子囊菌類 ノボリリュウ科	++	ギロミトリン メチルヒドラジン	7~10時間	コレラ型	激しい嘔吐、下痢、腹痛、けいれん 重症は肝障害、黄疸を起こす 致死率が高い	+	アミガサタケ
4	ツキヨタケ	キシメジ科	++	ラムプテロール	30分~1時間	胃腸炎型	激しい嘔吐、下痢 ときに幻覚症状	++++	ムキタケ ヒラタケ シイタケ
5	ニガクリタケ	モエギタケ科	+++	ファシクロール	20分~3時間	胃腸炎型	激しい嘔吐、下痢、腹痛、けいれん 致死率は低いが要注意	+++	クリタケ ニガクリタケモドキ カバイロタケ
6	イッポンシメジ クサウラベニタケ	イッポンシメジ科	++	不 明	15分~30分	胃腸炎型	激しい嘔吐、下痢	++++	ウラベニホテイシメジ ホテイシメジ シメジモドキ
7	マツシメジ カキシメジ	キシメジ科	++	不 明	1時間位	胃腸炎型	嘔吐、下痢	++++	サクラシメジ マツタケモドキ オオニガシメジ
8	ハナホウキタケ (キホウキタケ) (コガネホウキタケ)	ホウキタケ科	+	不 明	30分~3時間	胃腸炎型	軽い嘔吐、下痢、腹痛	+++	ホウキタケ
9	アセタケ属	フウセンタケ科	+++	ムスカリン	20分~2時間	神経型	多汗、呼吸困難、遅脈	+	
10	シビレタケ ヒカゲシビレタケ	モエギタケ科	+	シロシピン シロシン	20分~2時間	神経型	手足のしびれ、麻痺、幻覚	+	
11	オオワライタケ	フウセンタケ科	+	ブシロシピン	5~10分	神経型	視聴覚障害、幻覚、異常興奮	+	
12	ワライタケ	ヒトヨタケ科	+	ブシロシン	20分~2時間	神経型	幻覚、異常興奮	+	
13	ヤブシメジ (ドクササゴ)	キシメジ科	++++	フリチジン	4~5日	末梢神経型	手足の末端の腫脹、壊死 末梢神経 障害による激痛、症状は1月続く	+++	チチタケ
14	テングタケ ベニテングタケ	テングタケ科	+++	ムスカリン	20分~2時間	中枢神経型	中枢神経障害による精神錯乱、幻覚 視聴覚障害 24時間以内に回復	+	ガンタケ タマゴタケ
15	ニセクロハツ	ベニタケ科	++	不 明	5~20分	複合型	激しい嘔吐、下痢 その後言語障害、心臓衰弱を起こし、意識不明となる。致死量2~3本	+	クロハツ

1) ++: 致死の毒性がある。 +: 致死の毒性はない。

(2) 生態及び形態学的鑑別

No	種 別	形 態								植 生			注 意 事 項
		傘		茎		ヒダ		胞子紋	発 生 場 所		形 態		
		直径	色	高 さ	ツバ	ツボ	色		形	発生場所		発生環境	
1	ドクツルタケ タマゴテングタケ シロタマゴテングタケ	6~10 7~15 5~10	白 黄~緑 白	8~20 8~20 7~10	+ + +	+ + +	白 白 白	隔 生 隔 生 隔 生	白 白 白	地 上 地 上 地 上	広葉樹林 広葉樹林 広葉樹林	単生・散生 単生・散生 単生・散生	茎にツバとツボがある大型菌
2	コレラタケ (ドタアジロカサタケ)	2~5	黄 褐	6~9	±	-	锈 色	直 生	锈 茶	地上・樹上	朽ち木、腐葉	群 生	朽ち木や腐葉、おがこの上に群生する
3	シャグマアミガサタケ	5~8	紫 褐							地 上	広葉樹林	群 生	春季の発生 傘は形成せず脳みそ状
4	ツキヨタケ	10~25	紫 褐		-	-	白	垂 生	白	樹 上	ブナ林	群 生	傘は半円状 茎の肉に黒色のシミ ヒダは発光性
5	ニガリクリタケ	2~5	黄	5~12	-	-	黄	直 生	紫 黒	樹 上	針広葉樹の切り 株や枯れ木	束 生	味は非常に苦い 腐生菌 株を形成
6	イッポンシメジ クサウラベニタケ	3~10	淡黄土	5~10	-	-	淡 桃	湾 生	淡 桃	地 上	広葉樹林	群 生	ヒダはピンク色 茎は中空で下方が太い
7	マツシメジ カキシメジ	3~8	茶 褐	2~6	-	-	白	湾 生	白	地 上	松林 広葉樹林	単生・群生	ヒダを傷つけると茶褐色もシミを形成
8	ハナホウキタケ キホウキタケ コガネホウキタケ	10~20 10~25 5~15	橙 紅 淡 黄 黄							地 上	広葉樹林	列生・群生	桃紅色から黄色のホウキタケ
9	アセタケ属	2~6	茶褐系	2~6	-	-	黄 土	離 生	褐	地 上	広葉樹林	単 生	傘が円錐形
10	シビレタケ ヒカゲシビレタケ	1~6	青緑茶	1~6	+	-	紫 黒	直 生	紫 黒	地 上	堆 肥	群 生	腐生菌、手で触れると青変する
11	オオワライタケ	5~15	橙 黄	5~15	+	-	黄 锈	直 生	锈 色	樹 上	広葉樹林の切株	束 生 (大塊)	大きな株を形成する
12	ワライタケ	1~6	淡 灰	8~16	-	-	黒	離 生	黒	地 上	馬糞・堆肥	群 生	腐生菌、傘が鐘形
13	ヤブシメジ (ドクササゴ)	5~10	茶 褐	5~8	-	-	淡 黄	垂 生	白	地 上	竹林、笹	群 生 (菌輪)	タケ、ササやぶに群生、ときに菌輪を形成
14	テングタケ ベニテングタケ	4~25 6~15	暗 褐 赤・黄	5~35 10~25	+	+	白	隔 生	白	地 上	カバノキ属	散 生	傘にイボを形成
15	ニセクロハツ	5~12	黒 褐	3~8	-	-	白	直 生	淡 黄	地 上	広葉樹林	単 生	肉は空気に触れると赤味を帯びる

キノコの標本作製法

1 採取

老幼など熟度の違うキノコを、できるだけ数多く採取することが必要である。

さらに、採取の際には、採取地、自生環境、採取年月日、採取者、自生時の色、味、香りなどの記録をとるとともに、写真撮影やスケッチをするとよい。

2 輸送

ビニール袋等の密閉容器での輸送は、短時間であればさしつかえないが、長時間に及ぶ場合は形が保てないため不向きである。したがってそういう場合は、通気性のよいかご等に入れ、詰め物として、ヒノキの小枝、シダ、笹の葉などを利用するのが良法である。

3 乾燥標本

- (1) 脱水剤として、シリカゲルを大量に用意する。
- (2) 茶筒等の蓋のある容器の中にキノコを入れ、それが埋まるほどシリカゲルを入れて密封する。
- (3) 一日放置するとほぼ水分が取れる。
- (4) 必要に応じて熱風（50～60℃）を当てて乾かす。
- (5) 透明で蓋のある容器の中にシリカゲルを約1cm程度入れ、その上に乾燥させたキノコを入れる。
- (6) シリカゲルを適宜交換し乾燥状態を保つ。

形は多少縮むが、適切に作られた標本では、色は残り、ある程度香りや味も分かり、顕微鏡的観察にはきわめて良好である。

しかし、水分が多い湿性のキノコは原形を保たず、標本から元のキノコを鑑みることは難しい。

また、一般的に乾燥標本は色の残りがよいといわれているが、白色キノコの場合、乾燥のためか、より白色が強調されすぎてしまい、あまり適切な標本とは言えない。

乾燥状態が保たれれば長期保存にも耐えるが、シリカゲル等の乾燥剤の管理を怠るとカビや虫に侵されるので注意を要する。

4 液漬標本

- (1) 液漬用薬品（無水アルコール又は10%ホルマリン溶液）を用意する。
- (2) 透明容器にキノコを入れ液漬用薬品を満たし、密栓をする。
- (3) 数日すると、キノコの胞子や色素のために液漬用薬品が黄変してくるので、交換する。

取扱者の安全性の観点から、無水アルコールの使用が望ましい。

また、形はほぼ原形を保つが、色は退色、組織は膨軟化し、顕微鏡的観察は不可能となり、鑑別用には不向きである。

さらに長期間の保存には不適當である。

5 標本作製上の注意

標本の作製はキノコ中毒の再発防止上の重要な資料となるので、可能な限り原形に近い形で保てるように注意することが必要である。

キノコの性状、色等に合わせて適切な標本作製をしなければならない。

標本の作製方法の選択については湿性のキノコは液漬標本、乾性のキノコは乾燥標本、白色キノコは液漬標本、それ以外の有色キノコは乾燥標本が適当である。しかし、キノコによって特性が異なるので、標本用に複数のキノコを用意し、両方の標本作製することが望ましい。

6 その他

標本の作製に当たっては、原形を保てるように最大限の努力をしなければならないが、限界があるため写真撮影やスケッチをする必要がある。

写真撮影の場合、普通のカメらは、キノコの採取地、自生環境等の撮影に簡易であるが、キノコの形状まで細かく撮影ができないので、接写レンズ等の利用できるカメラで撮影する必要がある。

キノコの理化学的鑑別法

1 グアヤクチンキ・硫酸バニリン法

(1) 試薬

A液：グアヤクチンキ

グアヤク脂 1gに70%エチルアルコール 5mlを加え、よく溶けるまで攪拌する。溶けにくい完全に溶かすことが重要である。

調製後の色・・・チョコレート色

有効保存期間・・・2～3ヶ月

B液：硫酸バニリン

純水 3mlに濃硫酸 8mlを加え11mlとし、そこへバニリン 1gを加え溶かす。溶けやすいが混濁しないように色の変化に注意する。

調製後の色・・・淡黄色（透明）

有効保存期間・・・10日間

(2) 手順

試料採取：採取日から2日以内のもの（冷凍でも可）

切断：茎と肉の断面及びヒダの面

試薬塗布：2～3滴塗布（約1～2mlで十分である）

反応：A液は5分後、B液は塗布直後

判定・鑑別：反応時間経過後に固有の呈色を観察

(3) 鑑別法

クサウラベニタケ（毒）とウラベニホテイシメジ（食）

試薬	クサウラベニタケ（毒）	ウラベニホテイシメジ（食）
A液	緑色	反応しない
B液	反応しない	赤紫色

カキシメジ（毒）とチャナメツムタケ（食）

試 薬	カキシメジ（毒）	チャナメツムタケ（食）
A 液	青 緑 色	反 応 し な い
B 液	紫 色	反 応 し な い

ツキヨタケ（毒）とムキタケ（食）

試 薬	ツキヨタケ(毒)	ムキタケ（食）
A 液	反 応 し な い	青 緑 色
B 液	反 応 し な い	鮮 赤 紫 色

以上〔引用文献〕大木正行ほか：食品衛生研究．36．（1）．95（1986）

2 3%水酸化カリウム法

(1) 試 薬

3%水酸化カリウム（KOH）溶液

水酸化カリウム 3 g に純水97mlを加え、よく溶けるまで攪拌する。

調製後の色・・・無色（透明）

(2) 手 順

試料採取：採取日から2日以内のもの（冷凍でも可）

試薬塗布：傘に2～3滴塗布する（約1～2mlで十分である）

反 応：約1分後

判定・鑑別：反応時間経過後に固有の呈色を観察

(3) 鑑別法

ドクツルタケとシロマツタケモドキ

試 薬	ドクツルタケ（毒）	シロマツタケモドキ（食）
13%KOH溶液	黄 色	反 応 し な い

ドクツルクケとその他のキノコ等

試 薬	ドクツルタケ（毒）	その他のキノコ（食及び毒）
3%KOH溶液	黄 色	反 応 し な い

(4) 注意点

3%水酸化カリウム法はドクツルタケ特有の反応であり、ドクツルタケ以外のキノコはすべて反応しないため、反応しないことが食用であることを示すものではない。